

処理を考える (17)

「処理」が混乱？

昨年末、近畿視情協（近畿視覚障害者情報サービス研究協議会・加盟館 点字図書館13館、公共図書館35館）の録音製作委員会が、「録音製作に関するアンケート」を行い、現在その集計作業が行われています。また、集計の途中ですが、公共図書館で録音図書を所蔵し利用者に提供していると回答した館が28館（アンケートに回答した館）中24館ありました。さらに、そのうち、何らかの形で録音図書を製作している館が19館あり、近畿の点字図書館の総数を上回っていました。こうした数字をみる限り、近畿の公共図書館は視覚障害者サービスを積極的にすすめているといえそうです。

「録音図書作りに職員がどこまで関わっているか」の設問で、録音技術や調査アドバイスなどともに、「処理の相談に職員が関わっているか」の項目もありましたが、公共図書館の回答で「処理の相談にのる」と回答した館が8館ありました。処理の相談に職員が関わるということはかなり録音図書づくりに職員が関わっていることになり、最初は、意外な数字に驚きましたが、処理の内容として具体的にあげられていた内容は、ほとんど「著作権処理」のことでした。公共図書館職員にとって著作権処理は大変な作業と思われるかもしれませんが、録音図書作りでの「処理」の意味が職員に充分知られていないなかでの質問だったので無理もなかったようです。

「処理」とは録音図書をつくる上で、視覚障害者が利用しやすいように、検索がすこしでも楽にできるように工夫したり、音声になったものが、より原文に忠実に伝わるように配慮したりすることをいいますが、こうしたことを含めた録音図書とは何かといった職員の研修の必要性も浮かび上がってきているようです。



アンケートの話とは違いますが、今年の1月におこなわれて近畿視情協の研修会で、ある講師（全盲）が音声訳についての要望で「マニュアルにこだわりすぎ。もう少し音訳者の感性をもってやって欲しい」との発言がされていたようですが、この講師の発言に共感します。私なりにこの意味を解釈すれば、音声訳の作業は決してマニュアルを見ながらできるといったものではないということです。自分の処理がマニュアルにあるから合っているとかが、マニュアルにないから間違いなどと思い込む人も中には見受けられます。そうではなく、マニュアルの精神は、あくまでも利用者が聞いてわかる録音図書をつくる為にあります。聞く立場にたって、どこが通じないか、なにを補足するか、あるいは何を削除するか、さまざまに工夫をするのも、原文をより忠実に伝えるための作業ですから、マニュアルで処理を探すのではなく、自分自身の考えで処理を考えていかないとおかしい処理になることとなります。こうした作業を的確に行うには音訳者の「感性」あるいは「センス」といったものが求められます。この感性を磨く方法には、なんども言いますができるだけ他人のテープを聞くことだと思います。先の講師が「感性で・・・」と言われる背景にはまだまだ原文に適した処理が充分行われていない事への注文だと受け取るべきでしょう。

今月の練習問題

浮く女沈む男

島田雅彦

便秘の刑

ベッドから浮かび上がってきた時には、丸窓の外はすでに暗くなっていた。隣のベッドでは子供がくの字になって寝ている。その外側に、やはりくの字になって子供を抱え込むように女が寝ていた。一瞬あおいかと思ったが、髪の生え際も体臭も別人のものだった。

もう大抵のちんにゅうしゃ闖入者には驚かない。それより、腹にガスが溜まり、重苦しい。もう、丸二日間便通がない。意識も直腸も船倉のように袋小路だ。この船がミツルに便秘を強いている。あおいに会うことさえできれば、自分は便秘の刑からも解放され、この鬱屈も晴れるだろうに。腹にわだかまったものを一気に排泄し、薄荷の味がする空気を吸い、形あるもの全てが光り輝く青空の下、夏の高原のそよ風に吹かれながら、水から上がったばかりのあおいと抱きあう。彼は最も贅沢な、そして最も爽快な夢を思い描きながら、力み、少しずつ腹に溜まったガスを放出していた。

やがて、その臭いで子供と女が目覚める。ミツルはさすがとトイレに籠る。あいにく爽やかな夢への第一歩は便器の上で足踏みをする。たぶん、運動不足も便秘には災いしているのだろう。そのくせ心労は募るばかりだ。結局、ガス抜きだけで実りはない。ガスを出すたびに腸の中の密度は高くなり、やがて、ガスの抜け穴まで封じられるのだろう。便秘で死ぬのだけはごめんだ。

ミツルがトイレから出てくると、女も子供もベッドから出て、立ったまま彼に笑顔を向けていた。

――まあ座りなさい。

ミツルは二人に椅子を勧め、自分はベッドに腰かける。

――まだ名前を聞いていなかったね。

彼は日本語でいうが、二人には通じない。女は自分の旅行かばんから紙と鉛筆を出し、「身体的状況如何？」と書いた。ミツルは一言「便秘」と書いて応える。女は「横臥」と書いたので、ミツルは何の気なしに横になると、女はいきなり彼の太腿のつけ根の肛門に近いあたりに指を突き立てた。ミツルは反射的に体をよじり、「何の真似だ」と怒鳴った。女は苦笑混じりにいいわけをしたが、意味がわからない。ミツルは紙に「不要娼婦、再見」と書きなぐった。女はその文字を鉛筆でつぶし、「我不是娼妓」と書き、そっぽを向いた。女は出て行く様子がないので、試しに英語で名前と何をしているかをたずねた。女は気を取り直して、「郭燕燕」と書いた。それで女の名前は燕^{イェン}燕^{イェン}だとわかった。子供の方は小満と書き、シアオマンと呼ばれていた。英語や筆談では女がなぜここにいるのか、何をしたいのかはわからなかった。ミツルが組み合わせる漢字も彼がいわんとしていることからはずれる。手振り身振りを交えてみても、通じないものは通じなかった。ただ、小満が燕燕を「マー」と呼んでいるのを聞いて、二人が親子だとわかり、多少ミツルの緊張は和らいだ。しかし、見知らぬ男の股ぐらをまさぐる母親とそれを黙って見ている息子が怪しい親子であることに変わりはない。

ミツルは小満に「父在何処」と書いて見せると、首を横に振り、「父不在了」と書いた。それに燕燕が「夫死于非命」と続ける。彼女の夫は非業の死を遂げたとミツルは解釈した。夫が何者で、どんな死に方をしたのかは聞けなかった。

話が途切れると、燕燕は小満に耳打ちし、彼を部屋の外に出した。ミツルが「何処へ行くんだ」とたずねると、彼女は「小満搜出夜遊症的^{シエシエ}女」と書いた。どうやらこの親子はあおい探しに協力してくれるようだった。ミツルは「謝謝」と礼をいい、小満を送り出した。ミツルも廊下に出ようとしたが、燕燕に止められた。彼は大人しく彼女に従う。夜になると、親衛隊が人質狩りを行うとハルオがいていた。暇つぶしか。あり余った体力の発散か。連中の運動不足解消のだしにされるのはまっぴらだ。何も知らないべつとまんはまた、手ひどく殴打されるのかと思うと気の毒でならない。このふざけた戒厳令の下でもちょこまかと自由に動き回れる子供が羨ましい^{うらや}。

読み書き平行論

二ホン語日記

井上ひさし

「漢字があって日本語が存在するのではなく、日本語があって漢字がそれとかわりをもつのである」（野村雅昭『漢字の機能の歴史』）、だから必要以上に漢字にこ

だわってはいけないと、理屈ではよく分かっているつもりだが、新聞や雑誌の記事で「交ぜ書き」を見ると、なんとなくその日の御飯がまずくなる。頭では分かっているも気持ちでは許せないらしい。読者諸賢もご存じのように、交ぜ書きというのは、「骸骨」を「がい骨」、「拉致」を「ら致」、「改悛」を「改しゅん」と書く方法のことである。この原稿に取りかかる前、たまたま「日本農業新聞」（七月二十六日付）を眺めていたら、アメリカの米作事情が載っており、その大要はこうであった。アメリカの米生産高は、南部の不作もあって急激に落ちてきている。もちろん在庫量も落ち込んだ。そこで今年は減反のための転作率はゼロになるらしい。つまりアメリカの米農家も減反政策できびしいところへ追い込まれているのだが、今年度は減反しなくてもすみそうだという記事である。そして記事の見出しが、〈米国では転作ゼロに緩和／不作で需給ひっ迫〉と交ぜ書きになっていた。大きな見出し活字で交ぜ書きにされるといっそう間が抜けて見える。大活字で「逼迫」となっていれば迫力があつたのに惜しいことだと思いながら、こうやって原稿を書いているところだ。

（中略）

なにより困るのは、交ぜ書きが前後の繋がりを一瞬、曖昧にしてしまうことである。「いつから致されたのかは不明である」と書いてあつたりすると「らら」に惑わされて0.5秒ぐらいは意味がとれずにぼんやりしてしまう。「一日じゅう折かんされた」にしても同じ。「意味を漢字が担い、文法的な関係を仮名が受け持つ」という日本語表記の原則は伊達ではないのである。

そんなことを言っても読めなきゃ仕方がないじゃないかと思わぬわけではないが、ここで思い出すのは、あの親切な振り仮名のことだ。振り仮名となると、さらに国語学者の原田種成氏の名言が思い出される。

「振り仮名というものは漢字教育において常に傍らにいる教師である」

たしかに振り仮名は、読者の傍らにいて絶えず読み方を教えてくれる。さらに振り仮名はことばの意味を富ましめてもくれる。たとえば戦前の国文学者、五十嵐力（一八七四—一九四七）は次のように言った。

〈『病気をだしに』と書く代はりに『口実』と書けば、口実てふ漢文風の熟語及び、だしといふわが俗語に伴う意義趣味が相並び、相和し、相助けて茲に一団の豊かなる意味を伝ふる。『無言』『饗宴』と書けば『しじま』『うたげ』といふ古語をしらぬ者も漢字に絶つて其の意義を知り得るのみならず、『しじま+無言+だんまり』といふ様に古語と漢語と俗語と三重の意義を伝ふることになる。〉（『新文章講話』明治四十二年）

誠実で、教養豊かで、お道化てもいて面白い教師、振り仮名を鹹首にしてしまったのはつくづく惜まれる。こんなにありがたい教師をどうしてお払い箱にしてしまったのだろうか。おそらく明治以来の文部省の理想が「読み書き平行主義」にあったからだ。

処理の例

浮く女沈む男（その一）

- ◎シнтаイテキ、ジョウキョウ、イカン、ギモンフ 身体的状況はいかに
- ◎フヨウ、ショウフ、サイケン 娼婦は不要 サイケンは再びと見る
- ◎ガ、フゼ、ショウギ われ娼妓にあらず
- ◎フ、ザイ、イズコ 父はどこか
- ◎フ、フザイ、リョウ、リョウは終了の了 父は不在
- ◎フ、シ、ウ、ヒメイ 夫は非命に死す
- ◎ショウマン、ソウシュツ、ヤユウショウテキ、オンナ シアオマン 小満が夜あそびの女を捜しに出た

浮く女沈む男（その二）

二人には通じない。のあとに 「音声訳者注 以下の文中では三人の筆談は漢字のみで書かれていますが、読みくたします。注終り」

- ◎身体的状況はいかが。
- ◎娼婦は不要だ、又今度
- ◎私は娼婦ではない
- ◎父はどこか
- ◎父はいない
- ◎夫は非命で死亡
- ◎シアオマンは夜遊症的女、（夜遊びの女）を捜しに出た

読み書き平行論（その一）

- ◎「骸骨」をガイコツ、ガイは平仮名、コツは漢字、拉致をラチ、ラは平仮名、チは漢字、改悛をカイシュン カイは漢字、シュンは平仮名
- ◎需給ひっ迫、ひっは平仮名、迫は漢字
- ◎「いつから、ら致（らは平仮名、致は漢字） いつから、ら致されたのかは不明である」と書いてあったりすると「らら」に惑わされて．．．
- ◎「一日じゅう折かん（折は漢字、かんは平仮名）折かんされた」．．．
- ◎病気をだしに（だしは平仮名）と書く代はりに、だし（漢字口実にふり仮名だし）と書けば．．．
- ◎シジマ（漢字無言にふり仮名シジマ）ウタゲ（漢字饗宴にふり仮名ウタゲ）．．．
- ◎「しじま、むごん、だんまり」という様に（+はよまない）
- ◎1. 5 どちらさま、読者諸賢にルビ
- ◎1. 3 おどけ、道化にルビ、おどけてもいて．．． くび 馘首にルビ くびにしてしまったのは．．．

読み書き平行論（その二）

- ◎骸骨を がいを平仮名、こつを漢字、拉致を らを平仮名、ちを漢字、改悛を かいを漢字、しゅんを平仮名と．．．
- ◎ひっ迫、ひっを平仮名 はく、を漢字
- ◎「いつから、ら致（らを平仮名、ちを漢字）ら致されたのかは．．．すると「らら」（いつからのら、とら致のら）に惑わされて．．．
- ◎折かん せつを漢字、かんを平仮名
- ◎「病気をだしに」（だしは平仮名）と書く代はりにだし、口実にふり仮名．．．「しじま」（無言に振り仮名）、「うたげ」（饗宴に振り仮名）と書けば．．．

読み書き平行論（その三）

- 1. 5、1. 6は（その二）と同じ
- 1. 12
- ◎ひっ迫（ひっは平仮名）
- ◎「いつから、ら致（らは平仮名）、ら致されたのかは．．．
- ◎「らら」（いつからのら、とら致のら）に惑わされて．．．
- ◎折かん（かんは平仮名）折かんされた．．．
- ◎「病気をだしに」（だしは平仮名）と書く代はりに、口実にだしとルビと書けば．．．
- ◎無言にしじまとルビ、饗宴にうたげとルビと書けば．．．



二通りの読みがあって意味が異なるもの（48）

称える	夕える 誉める。称揚する。 けえる 名づける。呼ぶ。	供米	欠イ 神仏に供える米 キョウマイ 米を供出すること。
見物	ケブツ ミノ 見る値打ちのある物	出来物	テキブツ すぐれた人物。 テキモノ ふきでもの。はれもの。
後世	コウセイ 後の世。後の時代。 ゴセ （仏）あの世。死後に生まれ変わる世。	一足	イッソク 履物の左右一揃い。一組。 ヒトアシ 一步。僅かな距離。わずかの時間。

雑音を減らす

録音した時に「キーン」とか、「キン、キン」といった金属的な音が入ることがありますが、このような現象はハウリングといいます。ヘッドホンの代わりにスピーカーを使って録音している場合、ボリュームを絞らずに録音すると、録音された音がスピーカーから漏れ、その音がさらにマイクを通して録音され「キン、キン」といった金属的な音になって録音されてしまいます。はっきり分かる場合は気がつきませんが、ボリュームを小さくしている場合、微かに「キーン」と響いているような時は気がつかずにそのまま録音される方もあるようです。また、ヘッドホンを使用している場合、開放型のもので再生ボリュームを大きくして録音していると、耳から漏れた音がマイクに拾われて、響いた音になります。カセットデッキが3ヘッドの場合は、輪唱のように録音されてしまいます。また、3ヘッドのカセットデッキをお使いの方は音がずこし遅れて聞こえてきますので、ヘッドホンなどで聞きながら録音している場合は注意しましょう。中には、遅れて録音された音を転写と勘違いされているケースもあります。転写は基本的には防げませんがヘッドホンから漏れる音は解決出来ます。

ハウリングを防ぐには、まず、録音中はスピーカーのスイッチは完全に0に絞ります。実際、スピーカーを使って後追い録音をするのは大変ですから、普通はヘッドホン（イヤホン）などを使って録音する方が無難です。最近ではヘッドホン（イヤホン）にボリューム調整のついたものもありますので調整は簡単にできるでしょう。

お知らせ

『ろくおん通信』の更新について

グループの方へは、97年度の『ろくおん通信』の申込用紙を同封しています。97年度も引き続き希望されるグループは、申し込み用紙に記入の上録音製作係宛お送り下さい。

550 大阪市西区江戸堀1-13-2
盲人情報文化センター 録音製作係

利用者から製作依頼を受けている原本

以下のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。
引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。

書名 <分類>	引き受けて頂いたチーム
『気で治る木 日本の[気の医療]最前線』<医学> 『チャイナマン』田中昌太郎 著 <小説> 『中国の歴史と故事』<歴史> 『ヨセフとその兄弟 I』 <宗教> 『ヨセフとその兄弟 II』 <宗教> 『ヨセフとその兄弟 III』 <宗教>	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <<<<>>>> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> 今回引き受けて頂いた原本とグループ </div>	
『大座礁』ジェイムズ・W・ホール 著 <小説> 『たかの友梨のエスティク・ドリーム』鶴蒔靖夫著 <商業> 『沖縄現代史』新崎盛暉 著<歴史> 『真創世記 地獄編』<宗教> 『脳神経外科』大岡良枝、小林繁機編<医学> 『奪取』真保祐一 著 <小説> 『俳句会報美松 1月号』 『灯 1月号』 『公安警察スパイ養成所』 『不夜城』 『蒼穹の昴』 上・下 <小説> 『ケンタッキー・ダービー・ストリーズ』ジム・ホウス著 <スポーツ>	えくてもあ / / / / テプライブラリーにしのみや / / / / ICCB /